

-大学院歯学独立研究科-
第 103 回 中間発表会 プログラム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所：実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナー室
日 時：2019 年 7 月 24 日 (水) 17 時 25 分 開会

—2019 年 7 月 24 日 (水) —

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 山田研究科長	
1	[中間発表] 17:30~18:00 司会:小笠原 教授	「経管栄養患者と経口摂取者の口腔・咽頭細菌叢の検索 次世代シーケンスによる解析」 秋枝俊江 3 年 健康増進口腔科学講座 口腔健康政策学	主査:平岡教授 副査:吉成教授 :大須賀教授

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No. (ふりがな)	ID#G 1609	入学年 Entrance Year	2016 年 3 Year
氏名 Name in Full	あきえだ としえ 秋枝 俊江		
専攻分野 Major Field	健康増進口腔科学講座 口腔健康政策学		
主指導教員 Chief Academic Advisor	小笠原 正		
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 ・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation / The Matsumoto Dental University Society		
演題名 / Title of Presentation			
経管栄養患者と経口摂取者の口腔・咽頭細菌叢の検索 次世代シーケンスによる解析			
発表要旨 / Abstract			
<p>【目的】 経口摂取者と比較して経管栄養患者では、誤嚥性肺炎のリスクが高くなり、生存率が低下するとの報告¹⁾がある。経管栄養患者の舌の細菌叢についての報告²⁾があるが、口蓋・舌・咽頭における細菌叢を比較検討した報告はなく、経口摂取者と経管栄養者との部位別細菌叢の違いは不明なままである。そこで、経管栄養患者の部位別細菌叢を種レベルで明らかにするために経口摂取者と比較検討した。</p> <p>【対象と方法】 対象は高齢者施設の入所者のうち要介護高齢者で経口摂取者 10 名 (92.1±4.5 歳)と経管栄養要者 12 名 (80.6±6.6 歳)であった。尚、本研究は、松本歯科大学倫理委員会の承認(No. 257)を得たうえで実施した。対象者の口蓋、舌、咽頭をそれぞれ 20 回擦過した滅菌スワブから DNA 抽出を行い、保存液下で攪拌機にて懸濁した後に採取キットにより DNA 抽出を行った。次に PCR 法を用いて DNA 増幅(16S rDNA の V3-V4 領域)、次世代シーケンスによるメタ 16S 解析を実施し、部位別に細菌の検出を行った。統計処理は、Mann-Whitney U 検定を用いた。</p> <p>【結果及び考察】 経管群の口蓋では好気性菌が多く検出され、咽頭では嫌気性菌が少なかった。これは、経口摂取者に比べ経管栄養患者は開口状態の者が多く、外気との交通による酸素にさらされていることが影響していると考えられた。 経口群の舌では嫌気性菌が多く検出され、経管群では舌苔が少なかった為、経口群の舌で嫌気性菌が多いのは、舌苔が影響していると思われた。経管群と経口群の口蓋・舌・咽頭では <i>Neisseria flavescens</i> が上位 3 位以内を占めおり、<i>Neisseria flavescens</i> は経口摂取の有無に影響していなかった。通性嫌気性菌である <i>Streptococcus agalactiae</i> は経管栄養群のみで検出された。 <i>Rothia mucilaginosa</i> は経管群に多く検出され、日和見感染菌³⁾であることから、体力低下・栄養低下により菌血症などのリスクが高いと考えられた。</p> <p>【文献】 1) Abuksis G:Am J Gastroenterol 95:128-132 ,2000. 2) 安井雅樹:九州大学学術情報リポジトリ, 2010.https://doi.org/10.15017/19947 3) 竹下 <i>et al.</i> Japanese journal of Lactic Acid Bacteria 2016</p>			